

第8章 ベトナムの家庭における環境教育の役割

第3章第2節第2項目(p.51-53)で述べたように、家庭は児童の重要な教育の場であり、環境教育にも大切な場所である。本章では、ベトナムの家庭は環境教育に対して、また児童に対してどのような影響を与えているのかを明らかにしたい。そのために、ベトナムの家庭や家庭教育の特徴を明らかにし、日越の比較調査を通してベトナム家庭が環境認識と環境保護行動に関して、いかなる影響を与えているのかを検討したい。

第1節 ベトナムの家庭と家庭教育

1.1 ベトナムの家庭

ベトナム語で「家庭」(Gia @xnh)という言葉は日本語でいう「家庭」と「家族」の双方を意味する。家族は、血縁共同体として、ベトナム人の社会生活、文化、精神にとって重要な役割を果たしている。まさに遠い昔よりベトナム人は、この基礎的共同体を拡大することによって村落や国を形成してきた(P. H. Le,1995)。伝統的観念では、ベトナム人は国を遠い昔に共通の祖先を持つ子孫たちの血縁的共同体的性質を持つものにとらえてきた。そのことは駱竜君(竜)が姫姫(仙女)をめとると百の卵が生まれて子供になり、その中で、母親について山に登った長男がやがて雄王として文郎国を建国した、という神話に表れている。従って、ベトナム人は自分たちを全て竜と仙女の子孫、雄王の子孫、同じ血筋の同胞と見なし、雄王を Vinh Phu 省雄王廟に旧暦3月10日、共通の祖先としてまつている。毎年旧暦3月初旬、多くの地方から雄王廟に行き、敬意を払いながら参拝しているベトナム人が多い。実際の生活でも、親族関係は全社会関係に映し出されている。それは、日本や他国と違っているベトナム人同士の呼称の仕方である。全然血縁がなくても、年少者は自らを子(con) 孫(ch, u)と呼び、年配者をオバ(c<<) オジ(chó, b, c) 祖父母(<ng, bμ)などと呼んでいる特徴がある。つまり、家庭はベトナム人にとって大事な概念であり、家庭に対する観念は全社会まで広がっていると言える。Le Thi (1993,p.6)は「家庭は『暖かい巣』であり、子供の発達に安全な条件を与え、年寄りが孤独にならないよう依頼でき、働いている人が毎日の疲れと心理的バランスをとる場所である」と強調している。

東南アジアにある農業国であり、定居の生活と水田の文明を中心とするベトナムにおいては家庭が基本単位として見られている。ベトナムの心理感情は家庭と深く関わり、

家庭と一族と村と密接な関係を持っている (Le Thi, 1993)。ベトナムの伝統的な家庭は封建思想を強く受けている。家庭は社会の大黒柱と見られている。家庭のメンバーと一族の関係は尊卑の秩序と厳しい規範による道德、義務、対処の仕方などで指導され、「上 敬、下 譲」、個人の利益は家庭と一族の利益に従うこと、祖先礼拝、親に感謝などはベトナムの家庭の規則となっているように、ベトナムは儒教道徳的、家族国家論的な思想が強く見られる。

最初のベトナムの憲法 (1945) で家庭内の男女平等が認められて以来、ベトナムの家庭は多く変化してきた (Le Thi, 1993)。農業の合作社化の時代、家庭経済という単位はほぼ消滅させられた。というのは、個々の家庭の保有地は合作社の土地の5%にまで制限されたからである。それは農業経済を衰退させただけでなく、農村における文化、社会生活、とりわけ家庭の子供に対するしつけの役割など全てに影響を与える誤った政策であった (P.H.Le, 1995)。しかし、ドイモイ政策が導入されて以来、家庭経済は重要な経済単位となり、ベトナムの家庭は受動的立場から主導的立場になり、ドイモイの成功に重要な役割を果たしている (Le Thi, 1993)。また、経済の側面だけではなく、文化、社会における家庭の意義は再確認され、それらの役割は家庭に戻されている (P.H.Le, 1995)。さらに、家庭の役割が高まるとともに、家庭の役割を十分に発揮できるための研究も盛んになっている。

近年ドイモイ政策の実施の下、核家庭の増加や世代間の不一致、離婚率の増加などはベトナム家庭の伝統に悪影響を及ぼしている。しかしながら、一般的には、現代社会におけるベトナムの家庭の位置について、Le Thi¹ (1993, p.7) は以下のように主張している。「現在ベトナムの家庭は強壯的に進み、ベトナムの社会の重要な細胞としての役割と位置が肯定され、ベトナム家庭の独立性や主導性が回復し、発展されている。」

1.2 ベトナムの家庭教育

ベトナムの家庭教育はどのような特徴をもっているのか本項で検討することにしたい。ベトナムで次のような身近な格言がある。

父の功は泰山の如く、
母の義は源から流れ出る水の如く。

¹ Le Thi は長老の教授であり、ベトナム社会科学委員会女性科学研究のセンターに属している。

心より母を慕い、父を敬い、
孝心をもつのが子の道なり。

ここで、子供の教育における父親の功績は、無比の壮大な山(泰山)にたとえられる。そして、母親の功績は水源から水が永遠に流れ出るようにたとえられる。子供の義務は自分を成人になるまで育ててくれた両親に対して尊敬の念を持ち、その態度を表すことにある。この格言は家庭毎の子守歌として使われ、前の世代から後の世代へと受け継がれてきたベトナム人の倫理である。つまり、両親への尊敬、家庭の各メンバーへの愛情はベトナム家庭の主要な教育目標である。第3章第2節第3項目で(p.51-52)で述べたように、感情や尊敬を通して子供を育てることは学校や他の教育組織と異なった家庭の特徴である。その特徴はベトナムの家庭でさらに目立つであろう。

前項目で、指摘したように、農業の合作社時代には、家庭の役割が無視されていたと同時に、家庭の教育の役割にも悪影響が出ている。しかしながら、ドイモイ政策の時代には家庭の役割が再確認され、ベトナムの伝統的な価値の回復に対する研究が進み、家庭教育の役割も回復し、発展するための条件が与えられている。

ベトナムの家庭の児童に対する教育について以下の点が指摘できる。

まずは、近年核家族化が進んでいるにも関わらず、ベトナムの特に農村地域では、3世代の家庭や「大家族」は未だ多い(D.L. Hai)。「大家族」や3世代の家族の長所は大人のメンバーから児童に様々な領域の知識、経験、技能、行動などを教えられる点である。その中に、家庭そして社会の貴重な伝統などもある。また、祖孫、親子などの感情関係を通して、家庭の大人のメンバーは児童にとって、もっとも熱心な「先生」であろう。また、現在ベトナムのほとんどの小学校では、朝組みと午後組みに分けて、児童が半日しか学校にいないので、日本などの国の児童と比べて、家庭で過ごす時間がかかり多い。さらに、小学校の児童は個室どころか自分のベッドさえも持っていないのが圧倒的であるため、家庭の大人のメンバーと過ごす時間が長く、家庭とそのメンバーから強い影響力を受けていると考えられる。

次の特徴はベトナムの児童が小さい頃から家庭の仕事によく参加できる点である(N.T.Than,2001b)。例えば、ベトナムの都市部の家庭では、児童に台所の仕事や買い物などをよく手伝わせ、農村部の家庭では、台所の仕事だけではなく、水牛の面倒を見、草を切ったりすることや畑の仕事なども手伝わせていることが多い。家事を手伝うことによって、児童がまず手足の動作を熟練できることである。また、実際に参加することによって、前の世代からの知識や経験をよく覚えられる。なぜならば、「具体的な活動・体験」や「なすことによって学ぶ」(Learning by doing)などは重要な学習方法と見

られているからである。また、家事に多く参加することによって、児童に働く習慣や愛情が育成できるであろう。最後に、家事の参加を通して、児童が知識、経験だけではなく、多様な種類の技能や行動そして習慣を身に付けられる。

上記のベトナムの家庭、家庭教育の特徴をまとめると以下のように言える。ベトナムの児童が家庭で、多世代のメンバーと過ごす時間が長く、家庭の仕事にも参加することが多いため、ベトナムの家庭は児童の感情、行動、習慣などに大きな影響を与えていることである。

では、ベトナムの家庭は児童にどのように影響を与えているのか環境教育の視点から次節で検討しよう。

第2節 ベトナムの家庭における環境教育の役割 日越比較調査を通して

ベトナムの家庭は児童にどのような影響を与えるのかを明らかにするために、比較調査を通して検討することにした。調査はベトナムと日本の両方で行った。ベトナムでの調査はハノイの郊外にある Nguyen Kha Trac 小学校で、日本ではそれと似ている郊外住宅地の神奈川県茅ヶ崎市の浜の郷小学校に協力を依頼した。調査は質問用紙で行い、各質問に対する解答は選択肢を選ぶ方式とした。調査書はベトナム語と日本語のものを用意し、それぞれの国で小学校5年生とその保護者を対象とした。対象数や調査時期や地点は以下の通りである。

国	地点	調査時期	対象数	解答回収率
ベトナム	ハノイ市	2000年8月	児童95人と保護者95人	95/120=79.2%
日本	茅ヶ崎市	2000年6月	児童96人と保護者96人	96/100=96%

特に5年生を対象とした理由は、5年生はベトナムの小学校では最高学年にあたり、小学校のカリキュラムの大部分を修了し、初等教育段階における教育成果を把握できるからである。また、家庭にいるときには、5年生は大人と同じ仕事をする機会が一番多い点についても考慮した。

2.1 児童に対する調査結果

児童に対する調査の目的は、まずどんな情報源が児童に環境問題、環境保護にかかわ

る知識を多く与えているかを明らかにすることである。次に児童の環境にかかわる認識と行動を把握することである。今回の調査で行ったアンケートの項目は資料1に示している。

資料1 児童に対するアンケート調査用紙

このアンケートはあなたの考えに対するアンケートです。学校の成績にはまったく関係がありませんし、他人への公表もしませんので、正直に教えてください。

Q1.あなたはどこから「環境をまもらなければならない」という情報をえていますか、つぎの1～7のうち、ふさわしい番号に を囲んでください。

- 1.教科書 2.授業 3.新聞・雑誌 4.ラジオ・テレビ 5.家族の大人 6.友達
- 7.家族の秩序と習慣

Q2.つぎの項目から環境にやさしい行動はどれですか。それぞれの行動についてあなたの考えにもっとも近いものに をつけてください。

	行動	そう思う	そう思わない	どちらとも思わない
1	ゴミをきめられた場所にすてること			
2	家や教室などをきれいにすること			
3	えんぴつや本などを大切にし、ながく使うこと			
4	お金やものを節約すること			
5	木やみどりを大切にすること			
6	動物をやさしく守ってあげること			
7	缶やびんや紙などをリサイクルすること			

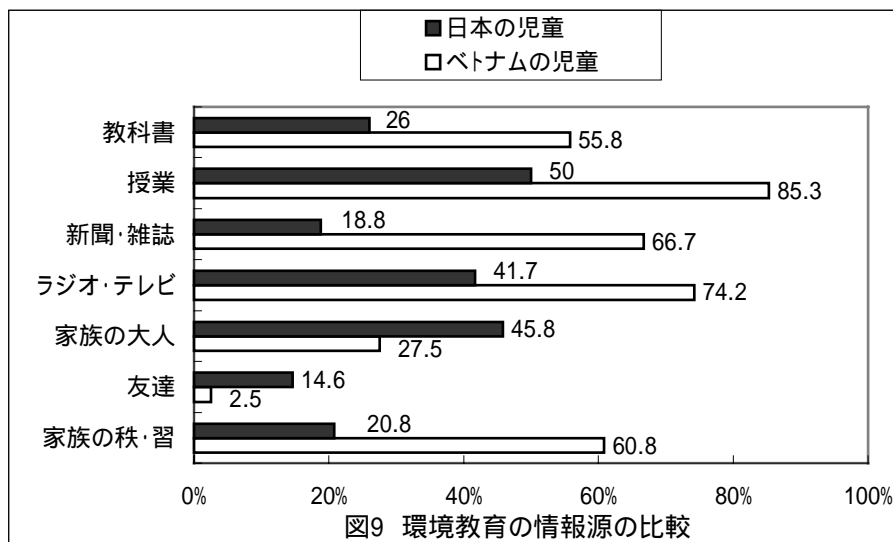
Q3.あなたは、つぎのことをよくしますか。それぞれの行動についてあなたの考えにもっとも近いものに をつけてください。

	行動	よくする	ときどきする	しない
1	ゴミをきめられた場所にすてること			
2	家や教室などをきれいにすること			
3	えんぴつや本などを大切にし、ながく使うこと			
4	お金やものを節約すること			
5	木やみどりを大切にすること			
6	動物をやさしく守ってあげること			
7	缶やびんや紙などをリサイクルすること			

アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。

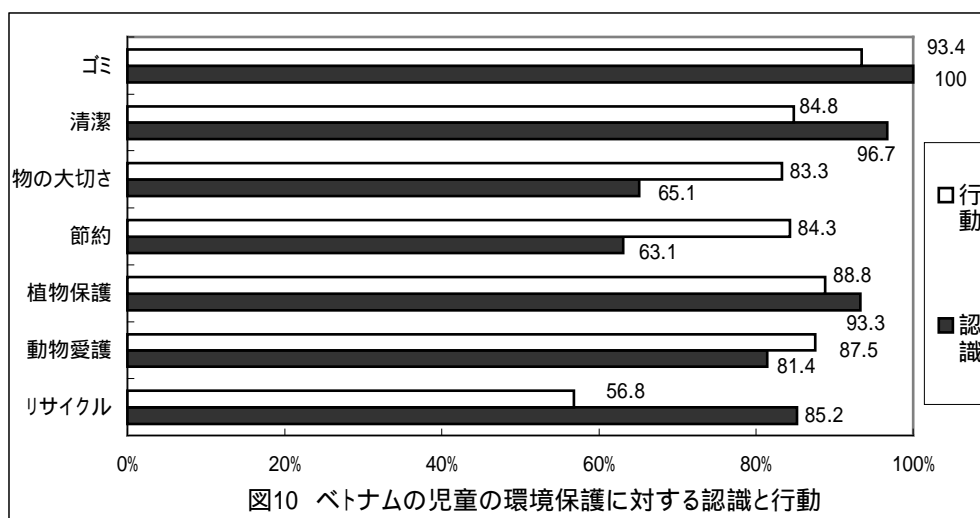
調査結果は以下の通りである。まず、環境教育の情報源に対する調査結果を図9に示した。その結果、ベトナムの児童は、日本の児童よりほぼ全ての項目から強い影響を受けていることが明らかとなった。そのうち、マスコミ（ラジオ・テレビ、新聞・雑誌）は学校（教科書、授業）の各項目と同じ位の割合を占めており、続いて「家族の秩序と習慣」、最後に「家族の大人」と「友達」の順である。注目したいのは「家族の秩序と習

慣」に対する結果は高い(60.8%)にもかかわらず、「家族の大人」に対する結果は低い(27.6%)点である。それに対して、日本の家庭にかかわる項目の結果は逆になっており、「家族の大人」に対する結果は「家族の秩序と習慣」より高い。従って、ベトナムの保



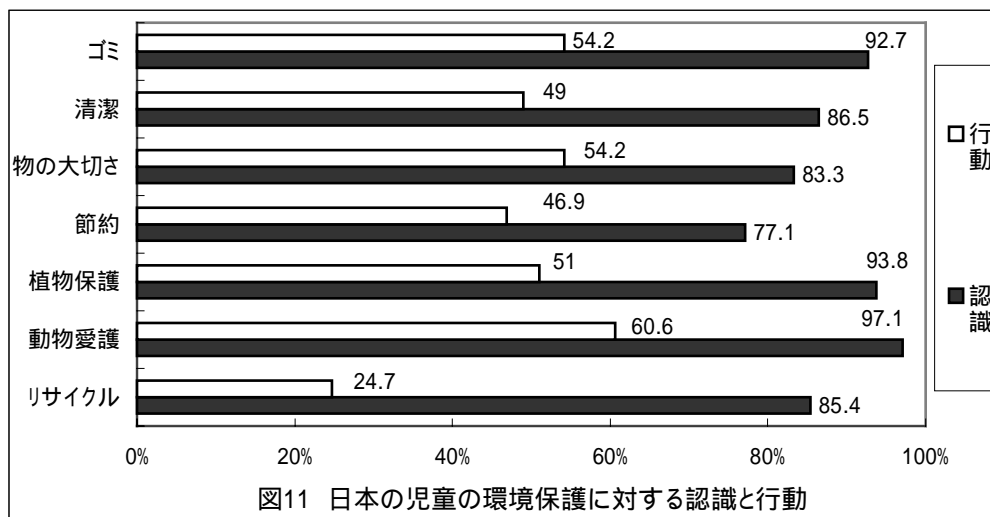
護者が児童に与えている環境教育における影響は認識的側面より行動的側面の方が強く、逆に日本の保護者の場合には行動的側面の影響は弱いのではないかと推測される。この推測を後出のデータとその分析でさらに検討していきたい。

また、図9に示している数字からベトナムでは環境にかかわる問題についてマスコミや学校が日本と比べて児童の主要な情報源になっているようである。ベトナムではドイモイ政策を導入してから今日まで15年が経ち、ベトナム人の物質的な側面がはっきり改善されてきた一方、環境問題が多面化、多様化している(L.V. Lanh, 1996)。現在のベトナムの経済発展がもたらしている環境問題は日本の高度経済成長期の環境問題(公害)



と共通の傾向がみられる(N.T.Than, 2000b)。日本で高度経済成長がもたらした公害問題

に対する情報や学習などは積極的であった（梶ら、1973）のと同様に、ベトナムでも最近、環境問題に関する情報がマスコミでよく報道されるようになり、小学校のカリキュラムにも環境教育にかかわる内容が取り上げられるようになった。



次に、児童の認識と行動についての調査結果を図10と図11に示した。児童の認識と行動の関連性を明らかにするために、同じ調査項目を設定した。項目の内容は大きく分けて、以下の通りである。項目1と2はゴミ・衛生問題にかかわる質問であり、項目3, 4, 7は資源・エネルギー、項目5と6は生態系と関わる問題である。

ベトナムの児童に対する調査結果（図10）をみると、全体的に児童の認識が高く、特にゴミ・衛生問題、植物にかかわる項目で顕著である。これは、最近ベトナムでは急速な都市化に伴う都市の衛生問題や森林伐採問題などが深刻になり（Vo Quy, 1998, P.N.Dang, 1998）マスコミでよく報道されている問題であることが原因だと考えられる。逆に、一番認識が低い項目は資源・エネルギーにかかわる問題である。ベトナムの児童がゴミ問題にかかわる認識が高いにもかかわらず、資源・エネルギー問題に対する認識が低いというのは、ゴミ問題はここでは衛生問題としてしか認識されていないからであると考えられる。それはベトナムの経済社会発達段階と関連している。つまり同じゴミ問題であるが、経済発達段階によって問題となる焦点が異なると考えられる。ベトナムでは、質素な生活の仕方が顕著であるので、ゴミ問題の資源的な側面よりも衛生的な側面がよく認識されている。

また、認識と行動をあわせてみると、「認識は高い」が「行動は低い」というずれが顕著であるが、資源・エネルギー問題にかかわる3と4の項目には「認識は低い」が「行動は高い」という「逆」のずれがある。具体的には、ものを大切に、永く使うことや

節約することなどは環境保護の行動と「認識」している児童は 65.3%と 63.1%であるが、それらの「行動」をよく行っている児童は 83.3%と 84.3%に至る。さらに、「ものを大切にしている」83.3%の児童の中に、「認識」して「行動」に移している児童を割り出してみると 47.4%しかいないことが分かった。従って、「鉛筆や本などを大切にし、永く使う」ことをよく行うにもかかわらず、そのことは環境保護の行動と認識していない児童は $(83.3\% - 47.4\% =)$ 35.9%までに上る。同様の視点で「節約している」と答えた 84.3%の児童を見ると「認識」せずに「行動」をする児童は 34.8%となる。これらの数字は、学校やマスコミが環境問題、環境保護にかかわる情報を多く与えているものの、未だ環境教育は不十分で観念的、表層的であることを示している。

他方、日本の児童に対する調査結果(図 11)をみると、全ての項目で行動よりも認識の方が高いのが特徴である。つまり日本の学校は児童の認識に効果的な環境教育を行っているのではないかと考えられる。しかし、一方で日本の児童は行動がかなり低く、認識と行動の間にずれが大きい。図 9 の結果とあわせて考えると日本の「家族の大人」が児童にとって大きな情報源であるが、「家族の秩序と習慣」の影響は低く、日本の家庭が児童の行動面に与える影響は強くないことを示している。従って、前述した「日本の保護者が与えている行動的側面が弱い」という予想が正しいことが証明されている。

2.2 保護者に対する調査結果

保護者に対する調査の目的は児童が家庭教育からどのような影響を受けているかを明らかにすることである。そのために、今回の調査では、家庭にいる時に保護者が児童にどのように時間を利用させるか、また保護者がよくとる行動と児童にさせる行動にかかわる項目を設問した。そのアンケートの項目は資料 2 に示した。

資料 2 保護者に対するアンケート調査用紙

このアンケートはお子さんの時間の利用にかかわるものです。学校の成績にはまったく関係がありませんし、他人への公表もしませんので、正直に答えて下さい。

Q1. 家で、学校の宿題をしなくてもいい時、お子さんにどのように時間を利用させますか、以下の a~g の内 3 つ選んで、 を囲んでください。

- a. 新聞や小説などを読ませる b. 家事の仕事を手伝わせる c. 自由に遊ばせる
d. スポーツをさせる e. 塾へ行かせる f. 趣味としてののらいごとをさせる g. その他

Q2. あなたは、お子さんにどれぐらい家事を手伝わせますか。以下の a~e の各項目から一つ選んで、 を囲

んでください。

- a. 全く手伝わせない b. たまに、自分が一人で無理なとき、細かいことをさせる
- c. 子どもができる家事を時々させる d. 子どもができる家事をよくさせる
- e. 子どもができる家事と大人の仕事もいつもさせる

Q3. あなたは、日常生活で次のことをよくしますか。それぞれの行動について、あなたの考えに最も近いものに つけてください。

	行動	しない	時々する	よくする
1	日常生活で節水に気をつけている			
2	日常生活においてできるだけゴミを出さないようにしている			
3	使い捨て商品はなるべく買わないようにしている			
4	日常生活で節電に気をつけている			
5	食品を買うときはいつも安いものよりも、農薬を使わないものや環境にやさしいものを選択している			
6	地域の美化活動があれば、いつも参加している			
7	地域の緑化活動があれば、いつも参加している			
8	家がきれいになるようにいつも気をつけている			
9	節約し、ものを大切にしている			

Q4. あなたは、次のことをお子さんによくさせますか。それぞれの行動について、あなたの考えに最も近いものに つけてください。

	行動	させない	時々させる	よくさせる
1	日常生活で節水に気をつけている			
2	日常生活でできるだけゴミを出さないようにしている			
3	使い捨て商品はなるべく買わないようにしている			
4	日常生活で節電に気をつけている			
5	食品を買うときはいつも安いものよりも、農薬を使わないものや環境にやさしいものを選択している			
6	地域の美化活動があれば、いつも参加している			
7	地域の緑化活動があれば、いつも参加している			
8	家がきれいになるようにいつも気をつけている			
9	節約し、ものを大切にしている			

アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。